

# 富士のさと 防災・減災キャンプ 事業報告書

令和6年1月13日(土)～1月14日(日) 1泊2日



## 1. 目的

広域防災拠点として、自助・共助・公助の3面から横断的に防災・減災について体験し考える機会を提供する。そして、参加者自身が周囲のコミュニティ(学校のクラスや家庭)における防災減災の推進者として、災害の恐ろしさや日常的な備えの大切さ、助け合うことの重要性を考えるきっかけを作ることができる人材となることを目指す。

## 2. 対象

小学4～6年生 32名(男子:19名、女子:13名)

## 3. 協力

陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地・板妻駐屯地、能美防災株式会社

## 4. 日程

令和6年 1月13日(土)	10:00	10:30	10:50	11:30	12:30	15:30	17:30	19:30	21:30
	受付	はじめの会	アイスブレイク	昼食	防災について考えよう! 自衛隊講話 シチュエーションゲーム	防災クッキング	テント張り	停電時の生活を体験しよう	就寝
1月14日(日)	6:00	7:00	9:00	11:30	12:20	14:00			
	つどい片付け	非常食体験片付け	防災ラリー	昼食	防災リーダー行動宣言 おわりの会				

## 5. 事業内容

### 【事業1日目】1月13日(土)

#### (1) 自衛隊講話、シチュエーションゲーム

陸上自衛隊板妻駐屯地の災害派遣を経験した隊員より、静岡県熱海市伊豆山での行方不明者捜索や土砂撤去の体験などを講話いただいた。その後、陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地の隊員にご協力いただき、毛布や物干し竿、ロープを用いた担架作りや、ゴミ袋や新聞紙、定規を用いた骨折の応急処置方法、土のう作りの方法を参加者同士で相談し試行した後、自衛隊員から実際の方法や作成上のポイントについて説明を受けた。

#### (2) 防災クッキング

包丁や皿の洗浄が不要なポリ袋を用いて、和風パスタとわかめの酢の物を調理した。必要な材料は、いずれも長期保存が可能で備蓄しやすい食品を選定した。

#### (3) テント設営

避難所を想定したプライベートスペース確保のため、テントの設営を参加者自身で行った。

#### (4) 停電時の生活体験

被災してライフラインが制限された状況を想定した活動を行った。ランタンの明かりを頼りにテントの中でお風呂の代わりに清拭シートで体を拭き、その後すすぎが不要な液体歯磨きで歯を磨いた。



シチュエーションゲーム(応急処置の場面)



防災クッキング



テント設営、停電時の生活体験

## 【事業2日目】 1月14日（日）

### （1）朝のつどい、非常食体験（朝食）

非常食体験として長期保存が可能なレトルトカレーを食べた。またデザートには、能美防災株式会社からご提供いただいた長期保存可能なアレルギーフリーのクッキーを試食した。

### （2）防災ラリー

1日目に体験した担架作りや土のう作りを含む、全6個の防災に関するチェックポイントを班で回る防災ラリーを実施した。

### （3）防災リーダー行動宣言

2日間の振り返りを行い、それを基に参加者自身が今後防災において意識したいことや行動していきたいことを宣言した。参加者の行動宣言は、「災害時に慌てず避難する」ことや、「災害備蓄品を今のうちに確認しておく」など、2日間の体験を通して自身がより大切にしたいことを文字や言葉にした。



非常食体験



防災ラリー（消火器で消火体験）



防災リーダー行動宣言

## 6. 企画運営のポイント

- 事業目的である「自助・共助・公助の理解」ができるよう、1つ1つのプログラムが自助・共助・公助のいずれかと関連性があるように企画した。
- 陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地・板妻駐屯地に協力を依頼し、公的機関における災害救助（＝公助）についてプ口的声を参加者に届けられるようにした。また、応急処置や担架作り、土のう作りの方法を自衛隊員から直接教わることで普段接する機会がない自衛隊員との交流や、参加者のより深い理解に繋がるようにした。
- 事業開始前から参加者が災害備蓄品について考える時間を作れるように、1日目夜の振り返り時間で食べるお菓子は日持ちするものであるよう指定し、家族でどのようなものがあるかを相談する機会を設けた。

## 7. 参加者の声（事後アンケートより抜粋）

- 自衛隊さんの話もすごく分かりやすかったし、普段あまり地震のことを考えないから、とても勉強になった。もし本当に地震が来てしまったらこのキャンプで学んだことを活かしたいです。
- 停電した時のライトの大切さ、普段の食事のおいしさを感じました。食べ慣れたものを食べられるようにローリングストックをしていきたいです。
- 「ほっとひと息つけるもの」を用意していききました。友だちとお菓子の交換できたのが、楽しかったです。これからも困ったときにはお菓子を分けてあげたりしたいです。

## 8. 成果と課題

### （1）アンケート結果 回収 26 名（参加者 32 名・回収率 81%）

事業全体の満足度			
満足 25名 (96%)	やや満足 1名 (4%)	やや不満 0名 (0%)	不満 0名 (0%)

### （2）成果と課題

- シチュエーションゲームでは最初から自衛隊員に教わるのではなく、参加者同士で10分間話し合い、試行する時間を設けた。それにより、これまでの経験を生かした発想や新たなアイデアが見られ、参加者の創造力を育むことができた。災害時における自助の面では、自分の身を守るために臨機応変な対応も必要であるため、自分で考える時間を設けることは防災・減災の観点からも有効だと考えられる。
- 事業全体で災害時を想定し、ライフラインや食料、道具などに制限をすることで、参加者同士で思いやる気持ちや、お互いに助け合う姿が見られた。
- 防災ラリーは元々活動プログラムとして利用者に提供しているが、活動時間の長さや、活動場所の分散などによる理由から、利用実績が他の活動プログラムよりも少ないという現状がある。そこで今回は、防災ラリーのチェックポイントを新たに4つ考案し実施した。また、活動場所を従来のものから狭くすることで、準備や安全管理がしやすくなった。今後は、実践で得た感想やフィードバックを基にブラッシュアップすることで、より多くの利用者に選ばれる活動プログラムを目指したい。
- 参加者の安全と災害時の厳しさの両方を考慮しつつ、どこまで災害時の状況を想定した活動を提供するか非常に葛藤があった。今回は活動プログラムによって水や電気を一部制限せず実施したが、災害時を意識させるキャンプを目指すために、細かな状況設定（例：班で使用できる水をタンク1つにし、蛇口は使用しないなど）が必要だと感じた。